

学校と放課後等デイサービスとの連携について

資料 4

1 各学校の特別支援教育コーディネーターへのアンケート調査より（平成 30 年 10 月）

1. 利用状況について（把握分のみ）

小学校 46校のうち43校 238名が利用（通常学級在籍児童を含む）
中学校 22校のうち17校 26名が利用（通常学級在籍生徒を含む）

2. 連携の仕方について

- ・学校と事業所が、引き渡し時に情報交換をする。
- ・学校と事業所が、保護者を通して相互の状況を理解する。
- ・学校が、事業所のノートや通信を見て、児童生徒の様子や支援を把握する。
- ・学校が、事業所での活動を参観し、児童生徒の様子や支援を把握する。
- ・事業所が、学校の行事や授業を参観し、児童生徒の様子や支援を把握する。
- ・学校が、事業所作成の教育支援計画を見る。
- ・学校と事業所が、互いの教育支援計画を見合う。
- ・学校と事業所が、懇談を行う。（利用開始時、学期に1回程度、課題発生時）

3. よさと感じていること

- ・同年代の児童生徒との交流によって、人間関係が広がる
- ・様々な活動等が仕組まれていることによって、経験が広がる
- ・個に応じた支援をしてもらい、身辺自立の力が身についている。
- ・放課後や休日の過ごし方が充実し、規則正しい生活が維持されている。
- ・学校と事業所が同じスタンスで児童生徒の実態や状況を話しているため、保護者に伝わりやすい。
- ・保護者の負担軽減につながり、保護者が心にゆとりをもって児童生徒にかかわることができる。

4. 課題と感じていること

- ・送迎時の引き渡しについて（時間のずれ、引き渡し場所までの移動）
- ・問題行動の際の支援の手立ての違い
- ・学校、事業所、家庭の3者間のよりよい連携（互いに負担なく、共有できる方法）

2 放課後等デイサービスへの事前アンケート調査より（平成31年1月）

1. アンケート対象・回答率

岐阜市内放課後等デイサービス事業所 60事業所
アンケート回答数 47事業所 （回答率78.3%）

2. 在籍児童・生徒数

小学生 574人
中学生 182人

3. 引き渡し方法

1) 誰が

- ・支援スタッフ。（41事業所）
- ・送迎の運転手（バス送迎含む）。（11事業所）
- ・保護者の送迎。（6事業所）
- ・公共交通機関等を利用して自分で通所。（1事業所）

2) どこで

- ・教室まで迎えに行く。（34事業所）
- ・玄関・校門で出迎える。（33事業所）
- ・送迎車で待つ。（15事業所）
- ・職員室。（1事業所）
- ・保護者の送迎。（6事業所）
- ・公共交通機関等を利用して自分で通所。（1事業所）

4. 学校との連携の仕方

- ・学校に出向き、直接先生と話す。（契約時・普段の引き渡し時）
- ・先生に電話して話す。
- ・子どもや保護者を通じて、先生と書面でやりとり。（手紙・連絡帳）
- ・学校行事（授業参観・運動会等）に参加。
- ・保護者を通じて、子どもの学校での様子を把握。
- ・相談支援専門員を通じて、子どもの学校での様子や保護者の状況を把握。
- ・保護者、学校、関係機関、相談支援専門員等で会議を行う。

5. 学校との連携においてよさと感じていること

- ・子どもを共に育てていくという思いの学校・先生とは情報共有や連携がしやすい。
- ・子どもの課題であると思う事について、支援方法について教えていただける。
- ・学校・先生によっては事業所の見学に来てくださる方もいる。
- ・放課後等デイサービス等の福祉サービスについての理解や認識が広まっているように感じる。
- ・ケース会議を行い、今後は学校・先生との連携を密にとっていきたいと感じている。

6. 学校との連携において課題と感じていること

- ・先生方とゆっくり話をする時間がない。
- ・学校での支援内容が分からないことで、事業所での支援方法を迷うことがある。
- ・個人情報の観点もあり、保護者の了解があっても情報共有やケース会の開催が困難。
学校・先生と顔が見える関係になりづらい。
- ・放課後等デイサービス等の福祉サービスについての理解や認識、事業所との関係等学校や先生によって差があると感じる。
- ・送迎の場所や時間。(子どもがひとりで教室に残っている、迎えまで時間が長い等)